

繋がる福祉のこころ 藤久保小学校に咲く

第29回三芳町福祉まつり

寒波が続く中、さわやかな晴れ間に見まわれた11月26日(日)、藤久保小学校とみらい広場などで行われた福祉まつり。30もの団体による出店で賑わいました。ステージでは太鼓の演奏やキッズダンスで会場を盛り上げ、来た人を楽しませていました。福祉のこころが繋がり、みんなが過ごしやすい町に育つことが期待されます。



↑社会福祉功労者、福祉まつりアート展の入賞者等の表彰も行われました。



↓当日は大勢の職員が国旗を持ってコーチらを歓迎しました。



↓話の内容を瞬時にまとめ、書き起こす「要約筆記」。



芳のチカラで一本背負い！ オランダ柔道チーム表敬訪問

11月30日(木)、グランドスラム東京に向けてオランダの女子柔道チームが来日しました。事前合宿を淑徳大学で行い、コーチらが町長を表敬訪問。町の魅力をPRすると共に、体育施設を視察しました。これまでも淑徳大学の柔道場で練習を重ねてきたオランダ女子柔道チーム。淑徳大学の女子柔道チームと共に鍛錬に励み、いい結果を残してくれることに期待しています。

聴こえにくいつってどんなこと？ 聴こえとコミュニケーションに関する講演会

11月22日(水)、藤久保公民館で行われた聴こえとコミュニケーションに関する講演会。聴こえない人、聴こえにくい人にとって重要なコミュニケーションツールである手話通訳、磁気ループ、要約筆記を用い、聴こえないメカニズムや不便なことなどを学びました。丁寧に伝えること、伝わったかどうかを確認することで、どんな人にも「伝わる」コミュニケーションを取ることができます。

生きることは愛

年頭のごあいさつ

三芳町長 林伊佐雄

去る12月19日、マレーシアのペタリングジャヤ市と姉妹提携の調印を交わしました。今後、両市町の芸術、文化、教育など様々な分野での交流が展開され、世界の平和につながることを願っています。

マレーシアは多民族国家。マレー系、華人系、インド系が、お互いにそれぞれの文化、宗教等を尊重し合い共存共栄しています。かつて、モスリムの家庭にホームステイをしたことがあります。信仰厚く、定時になると自宅で祈りを捧げ、食事の時も決してテレビはつけず、家族との団欒を大切にしています。生活の中で宗教が重要な役割を果たしています。マレーシア人の優しく温かく他者への思いやりの原点は、ここにあるのではないかと感じました。

昨年、地元の淑徳大学磯岡哲也学長と懇談する機会を得まし

た。淑徳大学は、大乘仏教の精神を建学の理念とし、人材育成を目的とした素晴らしい大学です。対談で学長は、「教育基本法の中で、宗教を尊重する条項はあるものの、憲法の政教分離の規定により、義務教育の現場で宗教について触れることは難しいが必要である。」と話しておられました。

学生時代、宗教とは何かについて考えていた時、私の人生を変える一冊の本と出会いました。ウィリアム・ジェイムズ著『宗教的経験の諸相』です。宗教を研究上2つに分類しています。教団、教派、神学などの制度的宗教と、決して特定の教団等に属しては無くとも、そうした人をも含め宗教的な心を持ち生きている個人の宗教に。ジェイムズは後者を研究対象にしていますが、まさにプラグマティズム的な宗教心理学の視点が、



すべての宗教への道を私に開いてくれました。

今日、世界では依然として、民族紛争や地域間紛争が絶えません。その背景に、一つの要因として宗教もあると思われます。人類の歴史は、それぞれの民族がそれぞれの宗教に起源をもち、時によりその争いの火種になってきました。

多様な宗教や文化を受け入れ、お互いに尊重し合い、心豊かに生きていく。マレーシアの多民族国家に学ぶことは大きい。そして、私たちもグローバル化する社会の中で、そろそろ宗教から目を背けることに終止符を打つ時が来たのではないのでしょうか。

むしろ、昨年素敵な人に出会いました。ヒマラヤで瞑想修行をされた相川圭子さんという人です。彼女の言葉に勇気をいただきました。

「生きるということは愛である。」

人は、愛なくして身体的にも精神的にも生きていくことはできない。

その言葉に、まちづくりも愛だと気づきました。